

事業番号	07 04 16	事業改善シート (28年度実施事業分)		<input type="checkbox"/> 予算要求	<input type="checkbox"/> 当初予算案	<input type="checkbox"/> 補正予算案	<input checked="" type="checkbox"/> 点検
事業名	地域資源製品開発支援センター事業費			担当課	部局	産業労働部	
					課・局・室	ものづくり振興課	
総合5か年計画	プロジェクト	9-2-3 信州ブランド確立			E-mail	<a href="mailto:mono@pref.nagano.lg.jp">mono@pref.nagano.lg.jp</a>	
	施策の総合的展開	1-1 信州をけん引するものづくり産業の振興 1 成長産業の創出			実施期間	H20 ~	
人口定着・確かな暮らし実現総合戦略	信州創生の基本方針	3-1 活力と循環の信州経済の創出					
	施策展開	3-(1) 経済構造の転換 イ(ア) 地域資源の活用					

### 1 事業の概要

目指す姿	特色ある地域資源を活用した製品開発を企画から商品化まで通して支援し、優位性のある新商品開発を促進するとともにブランド化を図る。											
現状 (予算編成時)	平成20年からセンター事業を開始し、年間数100件に及ぶ企業等からの地域資源活用に関する相談に応じ、商品化・販路開拓に向け継続的に支援を行っている。センターが関わり商品化に至った製品の延べ件数は、5年間で200件を超える見通しである。											
県が関与する理由	県関与の必要性あり		【左記の説明、根拠法令等】									
	県民との協働による実施： 実施中		地域資源を「信州ブランド」として高付加価値で発信力のある製品にするためには、中小企業・生産者単独の取組では限界があり、県の支援が必要									
成果目標・事業内容	① 成果目標 (H28)											
	商品化に至る製品の件数:30件 過去2年の平均は41件。しかし、売れる商品を目指し、1件1件の商品づくりにより時間と労力をかける方針としたため目標件数を30件とした。											
	② 事業内容 (単位:千円)											
		項目	実施方法	H28事業実績		H28 (当初)	H28 (決算)	H29 (当初)				
		企画から商品化までの総合プロデュース	直接	地域資源活用に取り組む企業に対する継続的支援 ・民間での開発実績を有する総合プロデューサー配置(1名) ・具体的な構想、製品企画の策定支援 ・製品の試作、評価分析に関する支援 ・開発製品のブランド化へのアドバイス ・開発製品の情報発信(プレスリリース等)のサポート		5,751	5,528	5,745				
		デザイン支援による感性価値の向上	直接	デザインにより顧客の感性に働きかける製品の開発支援 ・デザイン専門支援員配置(1名) ・デザインの役割、活用に関する啓蒙 ・新製品へのデザイン導入に際しての助言、支援 ・開発製品の紹介パネル等PR資料の作成支援		3,751	3,421	3,747				
	新製品開発のためのワークショップ開催及びプロジェクトの推進	直接	地域資源の効果的な活用方法を研究するワークショップ開催(2テーマ実施、利用者負担2/3)及び商品化の可能性が高い有望案件(開発プロジェクト)への外部専門家等の派遣(12案件実施、利用者負担2/3)		4,069	3,411	4,069					
	銀座NAGANOでのテスト販売	直接	首都圏消費者・観光客等、販路を見据えた商品開発をするため、銀座NAGANOでテスト販売を実施(17品)		280	280	280					
			合計		13,851	12,640	13,841					
事業コスト	区 分(単位:千円)				成果目標の達成状況							
	予算額	前年度繰越	27年度	28年度	29年度	項目	H26末	H27末	H28		H29 目標	
		当初予算		13,851	13,841				目標	成果		達成状況
		補正予算				商品化件数(件/年)	42	41	30	30	達成	35
		合計(A)	13,549	13,851	13,841							
	Aの財源	一般財源		11,767	11,754							
		県債										
		国庫支出金	11,449									
		その他	2,100	2,084	2,087							
	決算額(B)	12,620	12,640									
概算人件費	職員数(人)	2.00	2.00	2.00								
	概算人件費(C)	16,552	15,828	15,828								
概算事業費(B(A)+C)	29,172	28,468	29,669									

目標に対する成果の状況	商品開発に熟達した民間出身の総合プロデューサーの配置により、効果的な商品開発が実施されたため、商品化に至った件数は目標を達成した(商品化事例:新スタイルの仏壇、匂を味わうジャム、手袋除菌システム 等)。
-------------	---

### 2 今後の事業の方向性

今後、事業をどのようにしていきたいか	<input type="checkbox"/> 事業を実施しない <input type="checkbox"/> 事業を見直して実施 <input checked="" type="checkbox"/> 事業を現行どおり実施 工業技術総合センター各技術部門との連携により、商品の品質や機能性を更に高める。また、平成28年度に事業化したモニタリング販売を今後も継続し、売れる商品づくりを推進する。
--------------------	---